



定部金貳錢 廣五錢 行十二 日刊休 日曜大祭 印刷所 福島縣石城郡平町鏡治町十一番

郷土文化の意義と題せる論文に余は接したる時其の寄稿者の誰れなるかを追究して見た。明大出身の若

松正一たる偶然なる姓名を新らしく印象されて、氏の現在に想創し氏の思想に余の内に語り合ふたけの境地を發見した。それは氏の偏意が悉く郷土人としての全豹を作し郷土文化への肯定が成り立ち併して地方的正義政策の原論を充分に認證されてゐるからだ。氏の論文は短かきものであるが氏の把持する地方的志操と行爲が極みなく眺められるは余にとり何よりの味方である

自然療能論を寄せて警城杏林界に異端者視され凝固地な同業者仲間に見送られる尚傲然として感觸なき柳澤篤義氏を余の冷眼に止めらるも、依然氏はヒロイズムの型に外れない人である。

渡邊藥局
品薬料染 劑調方處
目丁三町平 郎五政邊渡 (向局便郵)

看護婦 派遣の求 めに應ず

平町南町平 會婦護看平 番七〇三話電

物履な品上で粹 は際のため求御を

是非

店物きは井三 番六五話電目丁二町平

和 漆器屋井人紀

漆器店

目丁一町平 番五〇四話電

美味で評判の 遠藤パン (有聲座西隣)

内科・胃腸科・婦人科 十二指腸虫病科 花柳病科・X光線科

松村病院 平町南町電話一〇七番

内科・外科・耳鼻咽喉科・花柳病科

高久病院 平町田町電話五二三番

内科・外科・花柳病科 耳鼻咽喉科・婦人科

赤心堂病院 平町田町電話四七五番

町平紺 **吉田眼科醫院**

清酒 鶴仙 釀造元 石城郡平窪村

松吉屋本店 電話二四二番

電の第二回 春向友仙モスリン百撰陳列會 二月十五日ヨリ十七日迄三日間

ごうぞ御來店の上可否の御批判を願ひます

◇餘興として例の投票を願ひます

◇方法 最も御氣に召した友仙モスを御一人御一點限り御投票を願ひ最高投票の友仙を一等とし一等投票者の中より御一人に限り當籤友仙一反を無代進呈致します當撰外五名様限り粗品進呈致します 開票立會は常警毎日新聞社 警城平三丁目

外科内科 産婦人科 花柳病科 平町鎌田町

金成醫院 金成忠義 電話三五八番

一冊の代金で 御希望通りな 五冊の雑誌が 自由に讀める

平町長橋町三五 川崎回文庫 (申込次第規則書進呈)

小川郷産 御影石各種 玉石もあり

砂利及び砂 中山岩 採掘 販賣 土木請負業

石材商會 平町南町(火見下) 電話呼出二六七番

株式賣買中値 電話に金融致し

銘格	拂込	時價
警城銀行	五〇〇	五三・五
平銀行	五〇〇	六八・〇
同 新	權利	四〇
警越銀行	一一・五	一〇・五
警城銀行	五〇・〇	四二・〇
警城買新	三〇・〇	二八・〇
田村買銀	一一・五	一一・五
四倉銀行	一七・五	一七・五
農工銀行	二〇・〇	二五・〇
同 新	一五・〇	一九・〇
百七銀行	五〇・〇	五二・五
同 新	一一・五	一四・五
七七銀行	一一・五	九・八
郡山電氣	五〇・〇	四七・〇
同 新	二五・〇	二二・五
只見川電	一一・五	七・五
植田水電	一一・五	一五・五
好間水電	一一・五	一三・五
警城電物	一一・五	六・〇
警城製菓	二〇・〇	二〇・〇
平信託	五〇・〇	二〇・〇
警城勸業	一一・五	一三・五
植田物産	三〇・〇	二六・〇
平製水	二五・〇	一八・〇
好間軌道	五〇・〇	二五・〇
入山新	二二・五	一七・〇
小田炭礦	二五・〇	一七・〇
警城興業	五〇・〇	四一・〇
同 新	二二・五	一八・〇
警城セメン	五〇・〇	六五・〇
同 新	三三・〇	四四・〇
平運送	一一・五	八・〇

中野吳服店 電話六十七番

平町田町 電話三三三番

丸登式店 川添房二郎

縣下の雄辯青年を 網羅した辯論大會

平青年團が計劃

既報縣聯合青年團の總會は、櫻花爛漫の陽春四月中旬平町で開催される筈であるが、平青年團にては此機會を捉へて縣下青年雄辯大會を開催する計劃の由であつて團長大森勇氏は語る「縣の聯合青年團總會は一日だけで辯論などは各郡一名の代表選手が僅に五分間宛の時間

磐中学生徒の行動を 視察すべく夜警開始

徹底的な校外教育

毎夜職員が二名宛出動

磐城中學校にては夜間に於ける各生徒の行動を視察する傍ら諸種の取締りを爲す爲め毎夜二名宛の教諭が交互に出動して全町を巡邏しその傍ら生徒の家を訪問する事となつた、昨夜は寒い中を御苦勞にも生田教諭が巡回の當番に當つて視察の眼を光らしながら歩行して居たが其談に依ると「我々は學校に於てのみ生徒を教育し校外の教育と云ふ事に意を注がぬのは誤つて居ると信じた爲め夜警が開始されたのであるが是れに依つて生徒の行動を視察すると一層校外教育の必要を痛感せずには居られない」云々

平町の借金 約六十二萬圓

巨額に達する

平町は郡山市制施行と共に縣下第一の第都市として數年後に市制を施行することになるべく水道の設備等を整へ町の體裁も極めてよく出来て居るが一方同町現在の借財はどの位あるかと調べて見ると左記の如く六十一萬六千五百圓の巨額に達してゐる

常磐片々

半町の借財六十万圓、驚くに足らず、タツタ百萬圓にでさへ未だ四十圓足らず

夜警は消防の専賣かと思ひの外警中教員も生徒の爲めに夜警開始

是れを評して武州電氣曰く「暗いから悪い、電燈をつけて明るくせよ」と成程宣傳に抜目のない男

而し電燈が灯れば灯る程漏電の惶れあり、一層消防組の夜警を要す

▲小學校建築費二十一萬二千五百圓同増築費七千五百圓▲水道敷設費三十四萬五千圓▲商業學校建築費一萬三千圓

神谷火事騒ぎ 石城郡神谷村大字中神谷志賀梅

勤儉週間の實行事項

平第一小學校にて

職員と生徒が協力して

平第一小學校にては第二回の勤儉週間に際し職員児童共に協力して左記實行事項の勵行に努むる由

唱歌の研究

作曲家を招き

平第一、第二兩小學校唱歌研究部主催にて三月三四の兩日午前九時より平第二小學校にて唱歌研究會を開會する筈であるが講師は新進の作曲家佐々木英氏であつて同氏は「青い鳥」其他の童謡作曲を爲し目下東都樂壇の花形として知られて居る

貧家に同情

村から表彰

石城郡平川村大字岡小名消防組小頭村上重一氏は部内しますとされいなもので大低は子供の遊びになつてしまひますが、あれでなか／＼役に立ちますバケツや水杓等の小孔を塞ぐと立派に鑄掛がでます仕方はまづ孔の大きさに應じてヌ／＼箔を堅く丸めて孔の中に詰め込み上から焼火箸または焼鐵でちよつと押へるの



ス、はくの利用法

よく銀紙といひますが、チョコレートやタバコや粉白粉など包んであるス、箔は、丸めて根がけ等にいた

火難豫防宣傳 石城

郡内鄉村大字白水川平第一火防組合並びに第二火防組合にては火災盜難衛生に關する宣傳書を各電柱に貼付した

四倉大師堂の 入佛式執行

參詣者で賑ふ

既報石城郡四倉町如來寺境内の高野山大師堂入佛式は今明兩日入佛式執行したが高野山總本山からは大僧正名代として金剛峰寺總務藤村僧止參向し式後は四倉座及び海盛座にて高野山服部布教師其の他の講演あり此外義太夫、浪花節落語等の餘興賑々しく近在近郷からの人出一萬餘と稱せられた

兎の耳

腰巻百五十枚を盗む 大阪府立の大變態性慾となつたので昨年八月から大學病院に治療中の看護婦の腰巻一枚を盗んだのを手始めに本月八日まで腰巻百五十枚を窃取し部屋

平町人事

出生

△鍛冶町九上野貞次氏長女正子 △五丁目八引地精一氏長男芳子

死亡

△新川町六田中秀雄(一ツ) △鍛冶町三〇當時石城郡川部村大字三澤根本キキ(三七)

募集

本町高木ふよ子は十一日磐城高等女學校前にて懷中時計一個を拾得夫々平署に届出た

平町人事

出生

△鍛冶町九上野貞次氏長女正子 △五丁目八引地精一氏長男芳子

死亡

△新川町六田中秀雄(一ツ) △鍛冶町三〇當時石城郡川部村大字三澤根本キキ(三七)

の貧困者小松廣吉(六)に痛く同情し夜具一組を惠與した爲め村から其の篤志を表彰された

不平受付

投票歡迎

町議戰の級別撤廢、今や正に普通選舉さへも敷かれやうとする場合に當り平町の町會議員選舉に際しては級別を置くこと云ふ説が有りますが果して事實ですか、然も其の主張が政友會系の者に多いとの事ですが若し眞なりとすれば時代錯誤も甚しく寧ろ町民を愚弄するものと信ず、(愛町燈人)

募集

織紐二個△藤田女學校内目黒としを十一日古鍛冶町道路にて四圓五厘在中の黒皮蓋口△石城郡湯